

令和7年度第3回志木市社会教育委員会議録

日時 令和7年12月16日（火）

午後2時～4時

場所 いろは遊学館ホール・第1研修室

出席委員：竹前榮二、有馬隆江、市之瀬初男、宮原正幸、一ノ倉達也、中村和子、
山下美香、荻島亜紗美、石井都、星野祐子、渡辺静夫、野島悦子、
庄司早苗、渡辺恵（順不同、敬称略）

欠席議員：神谷惣治（順不同、敬称略）

市：土崎生涯学習課長、徳留主幹、石川主任、石井主事、

1. 人権研修会 「外国にルーツを持つ子どもたちの抱える人権課題」

講師：認定NPO法人多文化共生センター東京 石塚達郎 氏

2. 開 会

3. あいさつ 竹前議長

4. 協議事項 進行：竹前議長

（1）人権研修会に参加して意見交換

（議長）委員の皆さんにおいても、日頃の活動において関わりのある方もいる。本日の研修に参加してどのように感じられたか。

（委員）今回の研修で、知らないことを知れた。

（委員）こういう問題もあるんだなと感じた。国で支える仕組みが必要。

（委員）なかなか難しい問題である。同じような課題を抱えた方が沢山いれば、国が支援も出来るだろうが、ルーツ（立場も文化）もまちまちだと大きな問題だ。

（委員）国によって生活様式が異なる。周りの人が理解して支えてあげなくてはいけないと感じた。

（委員）子育て支援センターでも、日本式の文化に慣れていない方が居る。ひろがる輪の活動のなかで、外国にルーツのある子どもたちと親のつながりつくりの事業を継続して実施しているが、草の根的な事業が大切だと感じた。

（委員）外国にルーツのある方へヤングケアラーや受験の手伝いなど支援活動を行っている。フリースクールではないが、コミュニティへ参加できるよう居場所づくりをしていきた

い。

(委員) 近所に、まだ日本文化に慣れていない方がお住まいである。用があつてご自宅にお伺いしたときに、親御さんが日本語に慣れておらず、お子さんが通訳してくれたことがあつた。地域としても親の方々とコミュニケーションをとっていけたらと思う。

(委員) 在留の方にとって、日本で生活していくためには、高校を卒業するというのが、大事なことなのだとわかった。

(委員) 日本の方と結婚して、近所にお住まいの方がいる。文化の違いについて実感したことがあることを思いだした。生活の支援が大事だと思う。

(委員) 文化によって食べ物について制約があるのはとても大変な問題だと感じた。近所の子どもたちも、一緒のお菓子を食べられない子がいたことがある。

(委員) 国レベルで考えていかないといけない、教育現場の課題でもある。もし高校に入れたらとしても、その後をフォローしていく教員の教育がされていないと安心は出来ない。

(副議長) 今回の研修で初めて知った課題であった。こういった課題があるということを、ます多くの方に知ってもらうことが大切だと感じた。

(議長) 文化の違いというのは、応用力のある対応が必要である。口で言うほど楽な問題ではないが、研修会等でまず知ってもらう必要があるだろう。

(事務局) 今回、これまで志木市ではあまり取り上げたことのないテーマで、人権研修会を実施した。志木市内においても、無関係な課題ではない。今後も様々なテーマの研修会を実施するので、ご協力いただきたい。

(2) 生涯学習推進指針の改訂に向けたスケジュールについて

事務局より説明 説明：石川主任

現在「志木市生涯学習推進指針」の上位計画である教育大綱、第二次将来ビジョン・第六次総合振興計画の見直しを実施している。「志木市生涯学習推進指針」についても、前回の改訂から5年を経過していることから、上位計画の内容を踏まえ、令和8年度末の完成を目指して見直しを行う。社会教育委員にも3回ほどご意見を伺いながら、改訂を進めていくことを考えていることから、スケジュール案をご説明するものである。

(3) その他の

次回の社会教育委員会は3月24日（火）に開催予定。内容は、生涯学習推進指針の改訂に向けた方針案の提案について協議を予定。次回会議の開催通知に、資料を添付するので、事前に目を通してください。

4. 閉会 有馬副議長